

詩 人 の 家

—東日本大震災の被災地 宮城県石巻市におけるリノベーション—

細 田 みぎわ*

(2019年11月29日 受理)

設計・監理：細田みぎわ + Hosoda Archi-Studio

Proposal of Poet's House by Renovation Space in Miyagi Ishinomaki
Severely Hit by the Great East Japan Earthquake

Migiwa HOSODA*



写真1 展示・イベントスペース

* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科教授

1. 背景・敷地

2011年東日本大震災からまもなく9年経過する。宮城県石巻市牡鹿半島の集落では、道路の付け替え工事や地盤のかさ上げ工事が本格的に進行している。しかし、人口減少が深刻な問題であり、住人が以前の様に戻ってくる状況はあまり期待できない。集落が分散・縮小した印象はあるが、車で走ると海と山が交互にあらわれ、おだやかな自然が、惨劇を起こしたとは思えないようなおおらかさで今年も作品と訪れる人を包み込む。

復興をきっかけに、人の想いと繋がりを目差した芸術祭「リボン・アートフェスティバル」は2回目を迎えた。REBORN ART FESTIVAL 2019（主催：Reborn-Art-Festival 実行委員会，一般社団法人 AP バンク）は、今回も宮城県の牡鹿半島と石巻市街地を舞台にした「アート」「音楽」「食」を楽しむ祭として開催された。2019年8月3日～9月29日の58日間、会場は宮城県石巻市街地エリア、牡鹿半島の荻浜エリア、小積エリア、桃浦エリア、牡鹿半島先端の鮎川エリア、網地島エリアと広範囲にわたる。

前回、石巻市街地中心エリアで会場のひとつとなった筆者設計の空間「街の電器屋／店主の城」は、今回も会場として多くの来場者が訪れた。以前、詩人である吉増剛造氏が訪れ、その本棚を気に入ったことがきっかけで今回、牡鹿半島先端に位置する鮎川エリアの展示空間「詩人の家」を設計するに至った。

この「詩人の家」は、詩人吉増剛造氏の空間（その作品の展示とアトリエ）として機能した。会期中、吉増氏は付近のホテルに寝泊まりをしてこの鮎川で過ごした。鮎川エリアはキュレーター島袋道浩氏により進められ、元商店をリノベーションして、商店内部の名残は全て取り払い、吉増色に染めるための空間を設計することになった。

外観は一切デザインを施していない。ここは、100 M そばまで津波が迫ってきた場所である。被災した海側は、現在道路工事などの区画整備がなされ、風景は一変している。震災より以前には前面道路の海側に診療所が

建っており、この商店では入院患者のためにも様々なものが売られていたという。診療所は震災前に一部取り壊され、集会所として機能し、今でも使用されている。取り壊された敷地には、震災後仮設住宅が建設されたが、現在は空地である。集会所の3階 WC は、地震後、手つかずでまだその荒れた痕跡を残しており、リボン・アートフェスティバルの展示会場の一部となった。

震災時、商店は既に閉店していたが、街並みををそのまま留め、被災後も変わることなく鮎川の風景の一部としてこの商店を生かすことになった。

2. コンセプト

コンセプトは、「再生＝リボン」である。内部空間は、既存の木造軸組のあらわしとし、必要な壁は、リボン・アートフェスティバル2017で使用、倉庫に保管されていた CLT（Cross Laminated Timber）を積極的に再利用することにした。再生するには人々の想いと協力が必要である。ここでは、キュレーターのコンセプトに設計者と大工が空間を形作り、詩人の手が加わり完成した。また、工事中に木工家 賀来寿史氏によるワークショップを行い、13名の参加者により商店の廃材でベンチを製作した。前面の道路に並べて、縁側で過ごすかのように来場者が利用するために考えた。

内部は、展示・イベントスペース、詩人の部屋、バー（厨房を含む）で構成されている。インフォメーションを併用し、鮎川エリアの中心的な場所である。17時以降はバーが開店し、コミュニケーションの場となった。

CLT は、本棚（吉増剛造氏の蔵書）、本棚と一体化した天井と床、耐震を考慮した補強壁、バーカウンターの腰壁に使用した。4.5畳の和室は、床・壁が朽ち果てていたため、構造用合板の床、ラワン合板に柿渋仕上げの壁面とし、小上がりのアトリエ＝詩人の部屋となった。壁には吉増氏の作品が展示された。そして作品は、会期中も制作され続けた。



写真2 外観1
「詩人の家」の看板は、吉増氏が自ら描いた



写真3 外観2
手前がインフォメーション、道路右は集会場（元診療所）



写真4 CLTの詳細



写真5 蔵書を待っている本棚



写真6 本棚には吉増氏の蔵書。本棚ごしに詩人の部屋が見える



写真7 本棚，バーカウンターを見る



写真 8

展示・イベントスペースと詩人の部屋
会期中のイベントの様子（作品制作）
が動画で紹介され、モニター前には作
品展示



写真 9

バーカウンターから展示・イベントス
ペースを見る
ワークショップで製作したベンチは、道
路際に置かれた



写真10

本棚から外部を見る。外部道路の向こ
う側の空地には仮設住宅が建設されて
いた

詩人の家



写真11, 12 リノベーション前 震災前に街の雑貨店として営業していた



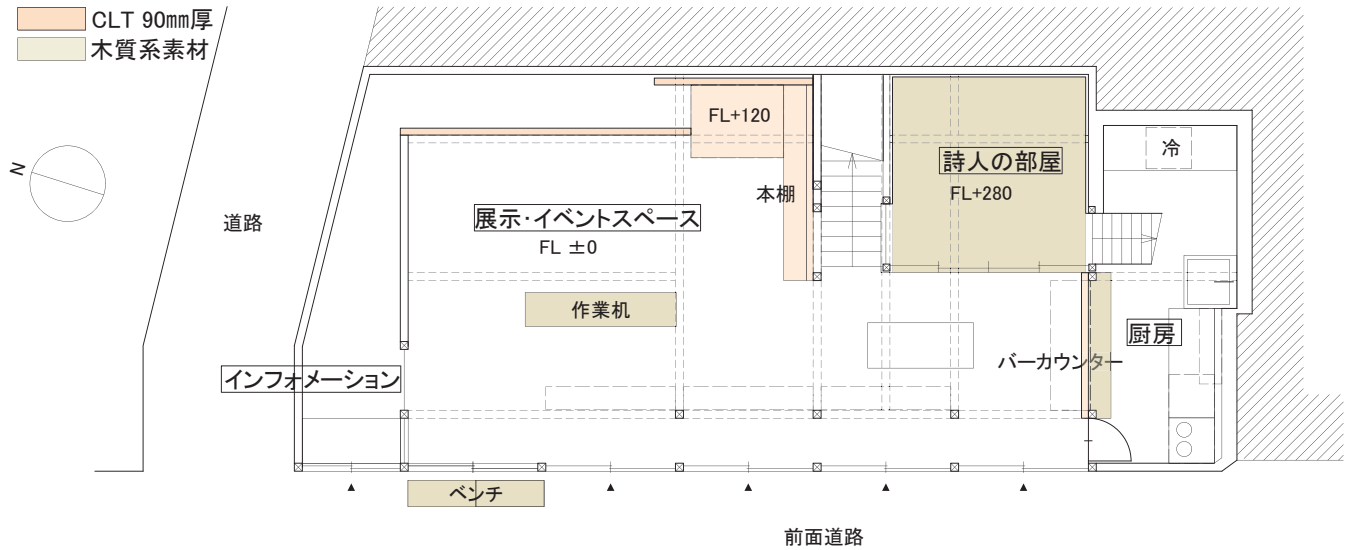
写真13, 14 ワークショップでできたベンチ



写真15 本棚の陳列作業（右より吉増氏，島袋氏）



写真16 リノベーション後 REBORN ART FESTIVAL 2019の様子（詩人 吉増剛造氏と詩人の部屋）



図面17 平面図 1 : 100



写真18 上：昼間（カウンター閉）
下：17時以降バーオープン（カウンター開）

設計データ

所在地	宮城県石巻市鮎川浜寺前18-6（元）成源商店
主要用途	展示・イベントスペース，詩人吉増剛増氏のアトリエ，バー，インフォメーション
設計・監理	細田みぎわ＋ Hosoda Archi-Studio/細田勇
施工	細田勇/Hosoda Archi-Studio
大工	細田勇，谷口和生，千葉翔揮
設備工事	瀬川恵氏／ライフワークス
ベンチ	賀来寿史ワークショップ（参加者13名）

構造	主要構造	木造在来工法（既存）
	基礎	布基礎（既存）
規模	階数	2階建ての1階部分
	1階床面積	62.31 m ² （リノベーション部分）

内部仕上げ	床	既存（鉄筋コンクリート金コテ押エ），一部 CLT t=90 mm クリア塗布，構造用合板 t=24 mm クリア塗布
	壁	既存，一部 CLT t=90 mm ペンキ塗り，OSB t=9 mm EP 塗布 ラワン合板 9 mm 厚 自然塗料（柿渋）塗布
	天井	既存木軸あらわし
	本棚	CLT t=90 mm ペンキ塗り，一部木製 t=90×90 mm クリア塗布
<厨房>	床・壁・天井	既存
家具	厨房カウンター	構造用合板 t=24 mm クリア塗布
	厨房棚	構造用合板 t=24 mm クリア塗布
	作業台	構造用合板 t=24 mm クリア塗布
	ベンチ	既存の板，杉材15×90 mm

撮影 山内紀人／山内紀人写真事務所（写真1～4，6～10，16，18）